

令和3年度 下松市立花岡小学校 学校評価書

校長 堀 川 勝 祥

1 学校教育目標	
『学び続ける子 心豊かな子 たくましい子の育成』	
【めざす児童像】 【知】：学び続ける子 ☆自分の力を知り、伸ばそうとする子 ☆自分の考えをもち、みんなと考えを深める子 【徳】：心豊かな子 ☆思いやり・助け合いの心をもち、行動できる子 ☆ふるさとを愛し、美しいものに感動する子 【体】：たくましい子 ☆めあてをもちがんばる子 ☆進んで健康・体力づくりに励む子	【経営方針】 ＜学び続ける子の育成＞ ○基礎的な知識・技能を確実に習得して「できる」力を育てる。 ○課題解決に向け、知識・技能を活用しながら学習を深める。 ○学びを支える学習意欲・学習習慣・学習規律の確立に努める。 ＜心豊かな子の育成＞ ○思いやり・助け合いの心をもち、よりよく生きようとする態度を育てる。 ○郷土を愛し、美しいものに感動する心を育てる。 ○学級活動を核として、生徒指導、学級経営を充実する。 ＜たくましい子の育成＞ ○体力向上や運動習慣づくりに努める。 ○家庭を巻き込んだ健康教育を推進する。 ○めあてに向かい根気強く取り組む活動を進める。 ＜組織の力・地域の力の結集＞ ○プロジェクト部会、コミュニティ・スクールの機能を生かし、学校運営・学校支援・地域貢献を充実する。 ○幼保小中高連携を推進し、学びと育ちのつながりを見通した教育を展開する。 ○教育環境を整備し、安心・安全な学校づくりを進める。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)					
【学び続ける子の育成（まなび）】 昨年度、「児童が学ぶよさを実感し、主体的に学び続ける児童の育成」を重点目標に設定し、コミュニティ・ティーチャーの協力を得て行う授業の計画的な運営と家庭学習の質の向上、主にこれら２つの取組を中心に行ってきた。コミュニティ・ティーチャーに来ていただいて授業を行うことは、きめ細かな指導や安全確保、保護者の学校教育への参画につながった。家庭学習の質の向上については、家庭学習の意義や方法、価値付け方などについて定期的に発信することで、保護者の家庭学習参画への意識の高まりや児童の意欲の高まりが感じられ、一定の成果を得ることができた。	【心豊かな子の育成（こころ）】 昨年度、「ふれあいを通じて思いやりをもち、人と関わる子の育成」を目指して、挨拶運動を中心に支援の方法を考えて実践してきた。各学年・学級で挨拶や会釈をよりよいものにするための発達段階に応じた指導を積み重ねてきた。具体的には、学級活動を通じた学級全体のあいさつ目標や個人目標を決めたり、よいあいさつをする児童を賞賛したりした。また、代表委員会の話合いで「学校全体であいさつ運動をする」という目標を決めた。挨拶週間を年２回行ったり、挨拶ボランティアを募って高学年を中心によい挨拶の手本を示したりした。 児童はしっかりと挨拶をしていると感じているが、教員や保護者、地域の方々はもっと相手意識をもった、より伝わる挨拶をしてほしいという願いをもっている。よりよい挨拶で、人と関わろうとする児童を育てることが課題である。	【たくましい子の育成（からだ）】 体力の向上を図るため、業間時間や昼休み定期的に遊ぶ時間を設定したことで戸外で遊ぶ習慣が定着してきている。今年度は山口県全体として課題である「柔軟性」の向上を図るために全校で毎日「ジャックナイフストレッチ」を実施したり「花小ストレッチ週間」を設定したりして、柔軟性向上に取り組んだことで意識の高まりは感じたが、正しい姿勢で柔軟をしたり、継続的に取り組んだりすることが困難な児童もいた。 「いい歯の日」に合わせて、「ハッピーカレンダー」と共に歯垢染色剤を使った染め出しを実施した。染め出しによって磨き残しが目に見えて分かったので、児童自身や保護者に歯の磨き方が十分でないことを再確認する良い機会になった。次年度も継続して継続して実施していきたい。	【組織の力・地域の力の結集】 例年通りの活動は難しかったが、工夫して連携した活動ができたものもあった。地域でのボランティア活動等、児童の成長や活動の成果を発表する場をつくったことは、児童の自信になるとともに地域への喜びにもなった。今後も地域貢献の活動を増やしていけるとよい。 小中共通取組事項を本校のチャレンジ目標と関連付け、「挨拶」「靴揃え」「姿勢・返事」「時間厳守」を教職員が同一歩調で取り組むことができた。しかし、児童の姿に十分に表れていないため、継続して指導していく必要がある。また、保護者・地域への小中共通取組事項についての情報提供は十分ではないため、保護者・地域の方々の参加協力をいただくまでには至っていない。特に「あ・そ・ぼ・おの約束」については、地域や保護者にも周知していくとよい。	【心と体の安全・安心の確保】 「いじめは起こるもの」といった共通認識のもと、週1アンケートや、教育相談、教職員間の情報交換を中心に、いじめの「未然防止」「早期発見」に努めるとともに、いじめが認知された場合は、全校体制で「早期解決」に取り組むことができた。引き続き、事実（問題）を各児童がどのように受け止めているかの正確な把握や、児童（保護者）が納得感のある指導（説明・報告）を行っていききたい。 毎月の安全点検による危機の未然防止や、シェイクアウト訓練、ブラインド型訓練等の実効性を高める避難訓練、急病時の危機対応研修等、学校としての危機管理・危機対応能力を養う取組を行っている。ヒヤリ・ハット事案が起きた際は、全職員が情報を共有して再発防止に努めている。	【業務の改善】 コラボノートの利用や、通知表・指導要録等の諸帳簿の電子化を推進するとともに、会議等の時間短縮に取り組んだ。また、月に１回、定時で退庁する週を「プチ残業ウィーク」として実施する等、教職員のワーク・ライフバランスの意識を高める取組も行ってきた。教職員の効率的に業務を進め、早めに退庁しようとする意識は高まりつつある。

3 本年度重点を置いて取り組むべき課題・めざす成果					
【学び続ける子の育成（まなび）】 「コミュニティ・ティーチャー」改め、「コミュニティ・サポーター」として、今年度も授業の協力をお願いする予定であるが、コロナ禍ということもあり、実施できるものが少なくなること考えられる。しかし、児童、児童、保護者、教職員にとって有効な取組であったので、今年度も実施計画を立て、可能な限り行いたい。家庭学習の質の向上については、その重要性については昨年度周知していくことができ、家庭学習カードの形式も中学年以上でそろえたことで、今年度スムーズにスタートすることができている。そこで、さらに一歩踏み込み、自主学習充実のための取組に重きを置くことで、児童の主体的に学ぶ意欲をさらに高めていきたい。また、まなびプロジェクトの活動として、「メディアふり返りデー」を末武中学校のテスト期間に合わせて複数回設定することで、メディアとのつきあい方について家族で振り返る場にし、児童の学びを充実させるための環境面についても整えていけるようにしたい。	【心豊かな子の育成（こころ）】 心豊かな子の育成を確かなものにするために、「挨拶を通して人との関わりを豊かにする」ための取組を継続していきたい。今年度の児童の挨拶の様子を見ると、「相手を見て」「聞こえる声で」「伝わるように」という意識をもってよい挨拶をしている児童が少ないように思える。引き続き、教員の育友会挨拶運動への参加や、学校全体での挨拶運動を進めていきたい。挨拶週間は年に３回とし、より保護者の協力を求められるようなプリントに改良する。また、見直しは適宜行っていく。あわせて、学校運営協議会や保護者、地域に向けて情報を発信し、周知を図りたい。よりよい挨拶をすることで、よりよい人間関係が構築されるようにしていきたい。	【たくましい子の育成（からだ）】 正しい姿勢で柔軟や準備運動ができている児童もいるため、今年度は朝の時間や体育の時間を活用して、正しい姿勢で柔軟性の強化に学校全体で取り組みたい。また、「花小ストレッチ週間」を継続して実施し、柔軟性向上の必要性について知らせたり、学年に応じて目標を設定したりすることで、継続的に取り組むことができるようにしたい。 よい生活習慣づくりに向けて、今後も「歯ッピー・くーねる・のびスト」や「歯垢染色剤」の実施を継続していきたい。「仕上げ歯みがき」については、発達段階を踏まえて設定目標を考慮し、親子で一緒に取り組めるよう働きかけていきたい。 家庭と連携して、歯磨きの仕方を振り返り、歯の表面やきわに気を付けて歯磨きをして、意識の向上を図りたい。	【組織の力・地域の力の結集】 七夕飾り、昔遊びやクラブ活動等、地域の力を生かした教育活動を見直し・整理する中で、無理なく継続できるカリキュラムや仕組みづくりに努めていきたい。また、コミュニティ・ティーチャーの一覧表及び記録簿等をもとに、見直しを行っていききたい。 小中共通取組事項・本校チャレンジ目標である「挨拶・会釈」「整理整頓」「時間厳守」を教職員だけでなく児童自身にも意識させ、児童会等の児童の自主的な取組の中で、充実・発展できるよう工夫をしていきたい。また、小中共通取組事項・本校チャレンジ目標に関する情報提供を行ったり、「あ・そ・ぼ・おの約束」についても、地域や保護者に周知していきたい。	【心と体の安全・安心の確保】 児童が所属する学級を「いじめを生まない・いじめを許さない学級＝クラスの友達を大切にする学級」にしていくことが最重要課題である。そのため、学級活動・道徳を中心とした全教育活動を通して、安心感・所属感・有存在感・そして規範意識のある学級づくりを推進していく。スクールカウンセラーや保護者、地域の方々とも連携を図りながら、情報共有に努めたい。 ヒヤリ・ハット事例をもとに、本校の安全点検・危機対応研修・避難訓練等の取組を見直し、危機管理に対する意識向上を図るための研修・訓練を行いたい。	【業務の改善】 業務や行事等の内容を精選するとともに、会議等の時間短縮と個別業務の時間の確保に努め、教職員一人ひとりが業務改善に取り組みやすい環境づくりを進める。また、教職員からの意見を吸い上げた業務改善プランを実行する等、教職員を主体者とし、一人ひとりの業務改善の意識を高められるようにしたい。

4 自己評価						
評価領域	重点目標	課題解決に向けての取組 (具体的方策)	評価基準(例) 4:十分達成 3:おおむね達成 2:やや不十分 1:不十分		達成度	重点目標の達成状況の分析 (取組の適切さの検証)
学び続（ける） な 子 び の 育 成	学ぶよさを実感し、 主体的に学び続ける児童の育成	○自主学习充実のための取組（自学ノート展2回実施、自学ノートの掲示、自主学习のすすめ《保護者用・児童用》配布） ○コミュニティ・サポーターとの連携 ○メディアとの付き合い方を考えるための取組（メディア振り返りデー5回実施）	4	アンケート項目で、3者の肯定的評価の平均が90％以上	3	自主学习充実のための取組では、「自主学习のすすめ」を作成して保護者・児童に配布することで、自主学习の意義や方法について3者が共有できるようにした。また、自学ノート展を7月と1月、2回実施したことで、自主学习の幅が広がり、意欲的に取り組む児童が増えた。コミュニティ・サポーターとの連携は、実施できたものについては、児童へのきめ細かな指導、安全な活動につながった。メディアとの付き合い方を考えるための取組では、「メディア振り返りデー」と名称を改めたことや定期的に分析結果を発信することで、家庭を巻き込んだ取組とすることができた。 2度のアンケート結果より、児童は、自主学习の効果を実感し、やってよかったという思いが強まっていることが分かった。保護者も児童の姿から取組に一定の効果を感じており、教職員も取組が成果につながっていると実感できていると言える。 今後も、児童の学びを支えるための取組を様々な工夫することで、自ら学び続ける児童の育成を図っていきたい。
			3	アンケート項目で、3者の肯定的評価の平均が75％以上90％未満		
			2	アンケート項目で、3者の肯定的評価の平均が60％以上75％未満		
			1	アンケート項目で、3者の肯定的評価の平均が60％未満		
心豊かな な 子 の 育 成	ふれあいを通じて思いやりをもち、人と関わる子の育成	○各学年・学級での挨拶や会釈をしっかりするための具体的な指導（教員の手本、児童への賞賛、学年ごとの発達段階に応じた実践など）を積み重ねる。 ○学級会・代表委員会などを通じて、児童が挨拶の良さを考え、意識的に実践していこうという意識付けをする。	4	挨拶や会釈がしっかりとできているという肯定的意見の平均が児童・教員・保護者・地域で90％以上	2	昨年度の反省から、挨拶カードで保護者自身に挨拶を意識して生活してもらうように工夫したり、挨拶ボランティアの活動を高学年だけではなく中学年にも広げたりした。 このような取組の積み重ねにより、相手意識のある挨拶をすることができるようになっていく児童が増えてきた。しかし、7月と12月のアンケート結果を見ると、児童の肯定的な思いとは異なり、保護者・教職員は児童の挨拶が改善されているとは思っていないことが分かる。質問内容から、「先に挨拶してほしい。」「より伝わる挨拶をしてほしい。」「という教職員や保護者の願いからくるものだ」と考える。児童によりよいコミュニケーションを目的とした挨拶であることを意識させ、挨拶週間や挨拶運動の時だけではなく、恒常的によりよい挨拶を行うことができるよう働きかけていく必要がある。そのために児童・教職員・保護者ともに目指す姿を共通理解をして、具体的な支援をしていくとよい。挨拶を通じたふれあいを通じて、人と関わりを深めることのできる児童を育てていきたい。
			3	挨拶や会釈がしっかりとできているという肯定的意見の平均が児童・教員・保護者・地域で80％以上		
			2	挨拶や会釈がしっかりとできているという肯定的意見の平均が児童・教員・保護者・地域で70％以上		
			1	挨拶や会釈がしっかりとできているという肯定的意見の平均が児童・教員・保護者・地域で70％以下		
たくましい 子 の 育 成（からだ）	健康的な体づくりに根気よく取り組む子の育成	○昼休みや業間時間に外遊びのできる日を設定し、外遊びを推奨することで体力の維持・向上を図る。 ○「ジャックナイフストレッチ」や「花小ストレッチ体操」を朝の会や体育の授業に取り入れられたり、家庭にも紹介して取組の投げかけをしたりする。 ○柔軟体操の必要性について児童に伝え、柔軟性向上のための意欲化を図る ○長座体前屈を年2回測定し、自己の伸びを知らせることで、柔軟性向上を実感させ、根気よく取り組むことができるようにする。	4	年間を通して計測時に記録が維持できたり、伸びた児童の割合が80％以上	3	業間時間や昼休みに定期的に遊ぶ時間を設定した。休み時間には積極的に外に出て「鬼ごっこ」をしたり「しっぽとり」をしたりと外遊びをする習慣が定着してきている。 毎朝、「ジャックナイフストレッチ」をして柔軟性向上に取り組んできた。さらに、「花小ストレッチ週間」を設けることでストレッチの正しい姿勢が身につけてきている。 今年度は「花小ストレッチ週間」では、どの学年も平均して週3日以上ストレッチに取り組むことができた。2学期の長座体前屈の計測結果では、1学期の計測時より記録が伸びた児童の割合が76％だった。そこで、来年度も継続して「のびスト」継続して柔軟性の向上に努めていきたいと思う。
			3	年間を通して計測時に記録が維持できたり、伸びた児童の割合が80％未満70％以上		
			2	年間を通して計測時に記録が維持できたり、伸びた児童の割合が70％未満60％以上		
			1	年間を通して計測時に記録が維持できたり、伸びた児童の割合が60％未満50％未満		
	自分の歯を大切にできる子の育成（歯の正しい磨き方）	○よりよい歯磨き習慣を身に付けさせるために、「ワ歯歯の日」に「奥歯のかみ合わせ・歯のきわ」を「奥歯のかみ合わせ・歯のきわ」が磨けているかを振り返る機会を給食後に設定する。 ○「歯ッピー・くーねる・のびスト」を通して仕上げ磨きのポイントを家庭に知らせ、親子で歯の健康作りの意識を高めていけるようにする。 ○歯垢染色剤を家庭で実施し、歯磨きの仕上げ具方を把握した上で歯磨きの仕方の向上を図る。	4	日頃の歯磨きの際に、「奥歯のかみ合わせ・歯のきわ」を意識して磨くことができた児童が80％以上である。	3	保健委員会による呼びかけにより、「ワ歯歯の日」には奥歯のかみ合わせ・きわをきれいに磨こうという児童の意識は9割と高い。しかし、アンケートの結果を見ると、常時きれいに磨けていると思っている児童は6割程度である。 11月8日の「いい歯の日」に合わせて、「歯ッピーカレンダー」と共に歯垢染色剤を使った染め出しを行った。染め出しによって、磨き残しのある部分が目に見えて分かったので、磨く際のポイントを意識させることができた。さらに、学校保健安全委員会や「げんきっこ」を通して、保護者へ仕上げ磨きの重要性を伝えることができたので、染め出しの取組は継続したい。 今後も、歯磨きの習慣化に加え、日常でも意識して歯磨きができるように、染め出しの結果を基に磨き残しが多い部分を分かりやすく掲示したり、手鏡の持参を呼びかけたりすることで、自分の歯にあった歯の磨き方ができるように指導していきたい。
			3	日頃の歯磨きの際に、「奥歯のかみ合わせ・歯のきわ」を意識して磨くことができた児童が80％未満70％以上である。		
			2	日頃の歯磨きの際に、「奥歯のかみ合わせ・歯のきわ」を意識して磨くことができた児童が70％未満60％以上である。		
			1	日頃の歯磨きの際に、「奥歯のかみ合わせ・歯のきわ」を意識して磨くことができた児童が60％未満50％以上である。		

5 学校関係者評価		
評価	取組状況・達成状況に関する意見	次年度に向けた 学校運営に関する 改善意見
3	自主学习へ取り組む児童が増えたこと、自主学习の効果を実感でき、やってよかったと思う児童がいるということは、先生方、保護者のアプローチが良い結果だといえる。家庭では、熱心なところとそうでない所で差が出ているのではないかと感じている。 コミュニティサポーターの取り組みを評価する。自主勉強を何とか取り組ませようとしているところも評価する。 「自主学习」と「宿題」学ぶことの目的があれば自主学习でもよいけど、学び方が分からない土岐は、宿題の方が子どもは取り組みやすいのではないかと。 アンケートから児童が自主学习を肯定的にとらえていることがよくわかる。保護者も7割以上が評価していることは素直に評価できる。教職員の熱心な指導の成果と言える。 期待値と実際の進捗度合の比較が一覧で可視化できる様式システムの構築と実践が必要ではないだろうか。 7月、12月のアンケートの結果で保護者、教職員には多少の変化が生じている。 自主学习ノート展により各児童が参考になる事を見出し、全校児童のノートの作り方の改善につながっていますが効果測定により客観的な成果が示せたらと良い。 6年生の中学校見学の際、中学生からの情報モラル教育を行ったことはとても良かった。	今年度、コミュニティサポーターを1度やったが、子どもたちの様子を見ることができ、とてもよい経験ができた。今後も継続してほしい。 やらされる自主勉強ではなく自らする自主勉強へ。個人差があるので、テーマ設定をしてもよいのでは。なんでもOKは意外とできない人はできないもの。もっといろいろな場面にコミュニティサポーター利用を拡大してほしい。 子どもにも目的をもつ学習の楽しさを導くことができれば自主学习でもよいが。小学生は宿題＝自主学习でよい気がする。 評価基準が厳しすぎるのではないかと。例えば評価4は90％を80％ぐらいが妥当と考える。 計算ドリルの複数回テスト、解放の説明と納得、解放の児童による説明、考え方 児童については、3つの活動・自学ノート展・自学ノートの掲示・自主学习の進め等の成果が出ている。継続してほしい。 中学生もSNSとの付き合い方がとても大きな課題になっている。小中学校、保護者、関係機関（警察等）が連携して取り組む課題である。
3	保護者・教職員の評価と児童の評価に差があるが、登下校時の挨拶をしてくれる子は多いと感じる。低学年は恥ずかしいのか出来ていない子もいる。マスク生活の中で、挨拶の改善がなかなかできない状況だったと思うが、カードを使うなどの工夫や挨拶運動など取組の努力は素晴らしい。声はなくても会釈など態度で示してくれる児童もよく見る。 マスク生活のコミュニケーションは難しい。顔（表情）が見えない。だから声が大切。あいさつはその一つだと思う。 学校の中ではできていると思います。登下校の時、朝は寒いので寝起き？下を向いている子どもが多い。下校時はこちらがすれば返ってくる。 校内では挨拶を割合よく返してくれている。下校時の挨拶も改善されている。今後も防犯の観点からも登下校時の挨拶の必要性を保護者に伝えてほしい。 朝一から就寝までのTP0に応じた「挨拶」の励行と納得感を考える。理解させて実践する。家族への第一声「おはよう」「いただきます」「ごちそうさま」「ありがとう」 挨拶週間を設定したうえで12月の挨拶が教職員0％となっているのはいかなものか。 内気な子が小さな声で挨拶してくれた時に、それに気づき継続できるように指導してほしい。	先生方がいつも気持ちの良い挨拶をしてお手本になっているので続けてほしい。 くだまるを挨拶に立哨に立たせる。表情の重要性を教育してみてもいい。 止まってくれた車などに対して、元花岡保育園の横で立哨していると中学生が会釈をして渡っていた。大きな声が出なくても会釈なら…と思った。 家族―地城―学校“どこでも”の考え方と実践 児童の挨拶についてはアンケート数値は毎朝登校時の交通立哨で感じている。しかし、日頃挨拶をしない児童も挨拶週間中は小さい声ながらもしてくれて効果ありだと思います。「元気な声で挨拶手を挙げて横断歩道を渡りましょう」の指導を引き続きお願いしたい。 挨拶について中学校と連携し9年間を通した共通実践をしていくといい。
3	外で遊ぶ機会が減っているので今後も鬼ごっこやしっぽとり等を継続してほしい。 コロナ禍でも体力・柔軟性の向上があったことは、習慣づけられた外遊びや体操の成果である。「こころ」にも関係するかもしれないが、行事や行動等の制約などでストレスを感じている児童が増えているかと心配である。遊びなど、いろいろな方法で発散させてあげることも大事であろう。 体育や外遊びは制限してはしかなかった。 コロナ禍で運動ができないからか？外遊びをする子どもをよく見かけるようになった。 長座体前屈が1学期から2学期にかけて76％の児童に記録が伸びたのは素晴らしいことと高く評価したい。 継続した実践と評価は大切です。 コロナ禍により3密、マスクの着用、手洗い、うがい等の規制がかかり児童にはストレス、運動不足が懸念される。 正しいやり方で継続できているかよくチェックしてほしい。 末武中生は柔軟性が全校平均に比べ、とても低い数字なので小学生のうちから柔軟性の向上につながる運動をぜひ続けてほしい。	今後もデスター等で子どもたちに指導してほしい。 歯の健康への取組は続けてよいと思う。 出来ていない子に一人ひとり磨き方を教えてみてはどうだろうか？私も先日歯科で歯ブラシの当て方指導を受けた。 継続と実践と評価（良い方） 歯磨きの仕方は家庭のしつけが大事。家庭ではできない事を学校で指導することが大切。
3	児童への意識付けはできている。（歯磨き達成度と関連して、虫歯予防で虫歯通院する児童は減っていますか？きちんと虫歯を治療して虫歯ゼロになった児童は何％ぐらいになっていますか？反対に治療に行っていない児童はどのぐらいいますか？） カラーデスターは親子での意識向上になった。 歯磨き習慣は大切です。先生方は大変でしょう。 染め出しへの認識は十分評価できる。 歯ッピーカレンダーにより計画的に行い、それを習慣化させ個人に合った磨き方ができるように指導していただきたい。 歯ブラシの寿命にも注意してほしい。歯磨きのやり方や力の加減で早く歯ブラシが広がってしまう。	

4 自己評価					
評価領域	重点目標	課題解決に向けての取組 (具体的方策)	評価基準(例) 4:十分達成 3:おおむね達成 2:やや不十分 1:不十分	達成度	重点目標の達成状況の分析 (取組の適切さの検証)
組織の力・地域の力の結集	地域の力を生かした教育活動の充実	○保護者・地域住民の参加・協力を得ての「ふるさとを愛する子どもを育てる教育活動」を各学年や各分掌で積極的に実施するとともに、記録を残し、無理なく継続できるようにする。	4	3	地域連携カリキュラムの作成により連携内容が明確になり、組織的に取り組む意識が向上した。学校運営協議会や全員参加のCS推進委員会の話し合い、プロジェクト部会の活動は、目標達成のために有意義であった。また、花ボランティアや自治会での学校だよりの回覧など、地域の力を生かす新しい活動を始めたことが成果である。 ふるさとを知り、考える学習は各学年計画されていた。その中には、6年の総合的な学習のように、地域の方と教職員が協力して進めることができたものがあるが、コロナ禍の制約のために計画中止となるものもあった。 今後は、地域連携カリキュラムに位置づけられた活動の内容、方法、時期を見直し、地域の力をより生かすようにCS活動を推進したいと考える。
			3		
			2		
			1		
	小中連携取組事項に基づいた教育活動の充実	○学級活動や児童会活動を通して、小中共同取組事項やチャレンジ目標、「あ・そ・ぼ・おの約束」を児童主体の取組に取り入れるとともに、学校の取組を情報提供し、保護者・地域から児童のよさや成長についての情報提供を受け、児童にフィードバックし、取組へ意欲向上を図る。	4	3	各学級担任は小中共同取組事項内容を踏まえ、チャイム前の着席、生活交通委員会や運営委員会による挨拶の呼び掛け、美化委員会による靴そろえカードの掲示など、児童の発達段階に応じて指導を継続し、児童の成長の姿を評価してきた。児童は、その言葉を励みに自らの行動をよりよいものとしようと意欲を高めてきた。 しかし、学校全体でみると、まだまだ成長途上にある児童の姿も見られることから、継続的な指導が必要であると考える。
			3		
			2		
			1		
心と体の安心・安全の確保	いじめを起こさない、許さない学級集団づくりの推進	○学級目標にもとづく取組や、学級生活づくりの話し合い等、学級活動を中心として、安心感・所属感・有用感・そして規範意識のある学級生活づくりを推進する。そのために、学校だより、学年・学級通信を通して、保護者や地域へ発信する。	4	3	質問7の児童のアンケート結果によると、クラスの友達を大切にしていると答えた肯定的な回答が1回目から2回目で12.1ポイント減少している。2学期に友人関係のトラブルが増えたことが要因である。教職員は、ほぼ全員がいじめを起こさない学級づくりを心がけており、いじめの予防的な取組を進め、問題発生時には、多くの人で解決を図っている。 今後は、安心感・所属感・有用感・そして規範意識のある学級生活づくりをよりいっそう推進していき、いじめは絶対に許されないという意識を児童にもたせるように努力していきたい。そうすることで、児童の「よくあてはまる」の回答が多数を占めるようにしていきたい。
			3		
			2		
			1		
	実効性を高める避難訓練・危機対応研修の実施	○ブラインド型訓練、シェイクアウト訓練、外部講師を招聘した訓練、緊急時を想定した引き渡し訓練等、実効性を高める訓練・研修を実施し、教職員の危機管理意識を高める。	4	4	ブラインド型訓練や、シェイクアウト訓練など、緊急時を想定した訓練を繰り返すことにより、児童の意識が高まってきている。また、訓練を通して疑問や改善点に気付くことで、教職員の危機管理に対する意識も高まってきたため、今後も継続していきたい。 アレルギーをもつ児童への対応として、医師による研修、保護者との面談などを行っている。これまでのヒヤリハット事案については、教職員で共有し、担任以外の誰でも対応できるようにしてきた。
			3		
			2		
			1		
業務の改善	教職員の業務改善に向けた意識の向上	○業務や行事等の内容を精選するとともに、会議等の時間短縮に努め、教職員一人ひとりが業務改善に取り組みやすい環境づくりを進める。 ○教職員からの意見を吸い上げた業務改善プランを実行し、一人ひとりの業務改善の意識を高める。	4	2	新型コロナウイルスの流行により、臨時の会議の増加等、例年にはない業務が増え、その対応に追われた1年であった。また、コミュニティ・ティーチャーやボランティアを募集し、学習や図書整理の支援をお願いしていたが、感染症予防の観点から活動がわずかしかなかった。残業時間の増加は、効率的な働き方について各自が意識するきっかけにはなったが、改善にまでは至らなかった。 昨年度より、業務支援員が配置されたことにより、印刷や仕分け、学級業務の一部等を頼めるようになった。今後は、教職員自らが業務改善のアイデアを出し合い業務改善の意識を高めていく。さらに、教職員でないときでない仕事と外部に頼める仕事を区別し、時間と精神面でのゆとりを作っていくことが必要であると考える。
			3		
			2		
			1		

5 学校関係者評価		
評価	取組状況・達成状況に関する意見	次年度に向けた学校運営に関する改善意見
3	昨年同様、コロナという制約の中で学校・先生方はよくしている。計画通りにならなかった行事があったのは残念。地域への情報発信方法を工夫されていることはこれから少しずつ成果となって表れるだろう。 6年生の未来へのくだまつの発表はよかった。 コロナ禍で中止になる行事が多く、できないことが多かった。 学校だよりの自治会回覧は英断だった。放課後子ども教室の行事に1回以上申し込んだ児童は全自動の25％にのぼっている。行事が少なかった状況を考えると地域に溶け込んでいるといえる。 昨今のコロナ事情で地域の力が発揮できていないのは、申し訳ない。学校で現在できることを地道に実践されていることは評価できる。 地域住民とのふれあいを大切（一般も）にして、児童の活動能力が十分発揮できる場を設ける事が必要。 放課後子ども教室には、毎回、数多くの参加があった。引き続きよろしくお願いしたい。 先日、中学校で学校保健安全委員会があったが、末武中の歯の治療率はとても高いということだった。これは、小学校でもこのような実践のたまものだと感謝している。	今年度は、地域の行事や祭りが中止になってしまったので、コロナが落ち着いたら子どもたちにはどんどん参加してほしい。 花岡は育友会のみならず地域全体で小学校を支えていこうという大変熱心な土地柄です。中学校とも連携し、より良い教育環境を築ければと思う。 地域課題を地域から吸い上げて、それを考えることで地域への愛着が出るのでは。 早くコロナが治まってほしい。 欲を言えば回覧で読んでもらう対象者（ほとんど保護者以外）を意識した紙面も時々でもよいので作ったらよいと思う。例えば、入学式、運動会等のイベント特集とか 公民館運営委員会等での説明と学校、市教委、等々での取組の内容の紹介と実践。密を避けて精力的にPRしたい。 クラブ活動、ボランティア活動等に積極的に参加して、体力増強に努めてほしい。 中学校とも生徒会の委員会活動の活性化を来年度の課題に挙げているので、小学校でも児童による委員会活動に積極的に取り組んでほしい。
3	なかなか見えない部分なので評価しにくい。CSの時に、下足箱を見たりチャイム前の様子を見せたりしてどう取り組んでいるかを示してほしい。 子供たちなりに、頑張っていると思います。コロナ禍で中学生との交流が全く残念でした。 理科ボランティアをしているが児童の学習態度がとても良いとみんなで感心している P-D-C-Aの効果的な実践の続行 小中実践項目である「挨拶・靴そろえ・姿勢返事・時間厳守」について、委員会による児童たち自らの活動で、実践していることが素晴らしい。	6年生は、中学校生活に向けて生活習慣をつけさせていいと思う。そのため、中学ではこうするなどの情報を交換してみては。 黙想の効果があるのか。先生方の評価（効果の有無など）を聞けたらよい。 P-D-C-Aの実践に適宜、児童を入れ協議に児童の声が欲しい気がする。
3	トラブルに関しての対応等、多岐にわたり努力されている。（質問7の保護者の回答で「あまりあてはまらない」が2回目で増えているのが気になりました） いじめの状況は外部にはわからない。ある程度こういう課題がある、学校としてはこう対応したなど最低限の情報がないと判断できない。 子どもたちはいじめについて悪いことと思っている。受け取り方でいじめになる事もある。 保護者の評価悪化と児童評価つながっていない。どちらのとりえ方が事実をきちんと把握しているのだろうか。 個と個のぶつかり合いがあり、トラブルが発生するのはしょうがないが、相手も自分も傷つけない互いに尊敬した対応となっているか、成長度合いによって、理解を深めることが大切。 最近メールによる不審者情報が多く寄せられるようになった。声をかけると不審者…と思われるようで、これでは他人とは全く話ができない状態である。以前は、声掛け運動、今は挨拶運動に変わっている。出会った人には誰でも挨拶をしてほしい。これも不審者と捉えらるれば会話は減少、人間は孤立化するばかりで、いじめにつながっていくのではないだろうか。	高学年はSNSの利用が多いと思うので、そのリテラシー教育に力を入れてほしい。 多様性を認める多様性とは何かを理解すればいじめも少なくなると思う。 命の大切さを教える。 “いじめ”の定義の変化を適宜説明し、理解に近づく話し合いや指導を願う。より機会を増やしてほしい。 日頃から、どこでも、誰とでも、挨拶して会話をもつことが大事だと私はそう考えている。 中学校では週1回（水曜日）に生活アンケートを行っていますが、小学校も行っていると思います。早くにいろいろな問題を見つけ特にいじめに関しては学級担任だけでなく組織的な対応が必要になってくると思う。
4	訓練も色々工夫されて、子どもも家で訓練のことを話してくれる。 子どもへの意識付けが高まっている。これから学校全体として危機管理能力を高めてほしい。 災害、不審者対策等をよくやっているとと思う。 自分の身を守る訓練は繰り返すことで意識が高まります。家庭でも話してほしい。 避難必要時の具体的対応、場所、時間帯、情報の収集方法等の確認と徹底の必要性。 花岡で育った子も多いですが、新たに転入してきた子も多いので、通学路の注意点をよく伝えてほしい。大きな交差点の改良工事、信号の移設等がある。	不審者が多いので、校門のところなどに監視カメラを設置してどうか。道路もあり他校に比べて入りやすい。 引き渡し訓練は行ってほしい。共働きの増加により、日中の災害時の行動、子どもと家庭、家庭と学校の取り決め（避難先や連絡先）を毎年行う。 学校、家庭、地域で取り組んでいきたい。 防犯、防災、交通安全など保護者の責任である範囲が大きいので、その認識を高めてもらうようもっと働きかけをしらうよい。 対応の目標が実践に備えて行動できるように徹底する。学校側は、情報の複数による共有 食物アレルギーの保護者、本人の面談は中学校でも行われており、小6生についても3月初めに行われるので、今後とも小中で情報共有できたらよい。
総合評価	学校関係者の総括意見	
3	今年度もコロナ禍の中、工夫しながら様々な取り組みられたことを評価する。 コミュニティ・サポーターや自主学習ノート展の取組を今度も継続してほしい。もっといろいろな場面にコミュニティ・サポーターを活用するとよい。 「あいさつ運動」に取り組んだが、挨拶をする児童は多い。しかし、マスク生活の影響もあるが、顔を上げないで表情が乏しい子もいる。教員がお手本となって気持ちの良い挨拶をしているので続けてほしい。 今年度はコロナ禍のため、組織・地域の力を生かした教育活動を実施するには難しい状況であった。学校だよりの自治会回覧での情報発信や放課後子ども教室の参加者の増加など、学校が地域に溶け込んでいる。地域への愛着をもたせるため、地域課題を地域から吸い上げ、子どもたちに考えさせる機会があるとうい。 業務の改善については、アンケートからも、残業の多さについて対策の必要性を感じる。会議の効率化を図ったり校務を見直したりするとともに、地域に任せたり支援員の活用なども考えていくとよい。 保護者も地域住民も、教職員とともに、学び続ける子、心豊かな子、たくましい子の育成をめざしていきたい。	

6 学校評価の総括(取組の成果と課題)					
【学び続ける子の育成（まなび）】 (1)自主学习充実のための取組（自学ノート展2回実施、自学ノートの掲示、自主学習のすすめ《保護者用・児童用》配布）、(2)コミュニティ・サポーターとの連携、(3)メディアとの付き合い方を考えるための取組、などにより、児童の学習への意識の高まりが感じられる。しかし、特に家庭学習への取組については、児童により内容面での差が大きいことが課題である。	【心豊かな子の育成（こころ）】 挨拶週間や挨拶ボランティア、保護者の挨拶の習慣化に関する啓発活動などの取組により、相手を意識した挨拶をする児童が増えてきた。一方で、地域での挨拶や、コミュニケーションを目的とした挨拶が不十分だという結果もあり、今後も取組を工夫して、指導を徹底していきたい。	【たくましい子の育成（からだ）】 今年度は「ストレッチの正しい姿勢」を意識して取り組むことで、柔軟性を高めることができた。ハッピーカレンダーや歯垢染色剤を使った染め出しを実施した。磨き残しが目に見えて分かり、児童自身や保護者に歯の磨き方が十分でないことを再確認する良い機会になったので、次年度も継続して継続して実施していきたい。	【組織の力・地域の力の結集】 小中共同取組事項を念頭に置き、児童の発達段階に応じてチャイム前の着席や挨拶などの指導を継続し、児童のよい行いや成長の姿を評価してきた。児童は、その言葉を励みに自らの行動をよりよいものとしようと意欲を高めてきた。	【心と体の安心・安全の確保】 児童のアンケート結果によると、肯定的な回答が90%を超えている。しかし、保護者の評価では児童に比べ肯定的意見の割合がやや低い。コロナ禍による衛生面への配慮について、学校関係者評価でも認めていただいている。緊急時を想定した訓練を繰り返し、児童・教職員の危機意識の向上を感じている。	【業務の改善】 新型コロナの流行により、臨時の会議の増加や消毒作業等の業務が増え、その対応に追われた1年であった。一方、定例の会議等は、事前の資料配布やかかる時間の申告などによって時間短縮を図られた。働き方を考える上での目安とする時間外在校等時間月45時間のラインを超える教職員は未だ多いことが課題である。

7 次年度への改善策					
【学び続ける子の育成（まなび）】 本校は今年度よりタブレットの持ち帰りを行っているので、今後はタブレットを活用しての学習など、家庭学習の可能性が広がると考えられる。このことは、児童による家庭学習の内容の差をうめていくきっかけとすることができるのではないか。児童が学習へのやりがいを感じ、自ら学び続けることができるよう、これまでの取組を生かしつつ、タブレットを活用した家庭学習についての取組を工夫していきたい。	【心豊かな子の育成（こころ）】 心豊かな子の育成を確かなものにするために、挨拶を通して人との関わりを豊かにする取組を継続する。学校・家庭・地域が年度の初めから、「よりよい挨拶をする具体的な児童の姿」について共有した上で、全体で挨拶運動を進めていく必要がある。	【たくましい子の育成（からだ）】 柔軟性の取り組みの成果が見えにくかったため、今後は取り組み方を工夫したり取り組みと成果をつなげたりして柔軟性の向上を図る。よい生活習慣づくりに向けて、今後も「歯ッピー・くーねる・のびスト」や「歯垢染色剤」の実施を継続していきたい。家庭と連携しながら、奥歯のかみ合わせやきわに気を付けた歯磨きの仕方を呼びかけ、意識の向上を図りたい。	【組織の力・地域の力の結集】 学校全体でみると、まだ成長途上にある児童の姿も見られる。このことから、小中共同取組事項の「挨拶」「靴揃え」「姿勢・返事」「時間厳守」について、子どもたちが課題に対して自主的・主体的に取り組めるような機会を設け、教職員の指導と併せて、取組の充実を図りたい。	【心と体の安心・安全の確保】 今後は、安心感・所属感・有用感・規範意識のある学級生活づくりをよりいっそう推進することで、保護者からの「よくあてはまる」の回答が多数を占めるようにしていきたい。災害発生時の連絡先や避難経路など、訓練で必要なことを日頃から確認しておくことや、訓練の成果と課題を記録して蓄積していくなど、訓練の内容の充実を図っていきたい。	【業務の改善】 昨年度より、業務支援員が配置されたことにより、印刷や仕分け、学級業務の一部等を頼めるようになった。今後は、教職員自らが業務改善のアイデアを出し合い業務改善の意識を高めていく。さらに、教職員でないとできない仕事と外部に頼める仕事を区別し、時間と精神面でのゆとりを作っていくことが必要であると考える。